

おれんじニュース

No312

2016年3月号



2016年2月14日、気温の高いのと、前夜の雨の為、恐羅漢山へは、スキー場の中を歩く事に。スノーボーダー、スキーヤーを横目にもくもくと歩いた。

今月号の記事	県連の行事案内(アルパインクライミング)・水曜登山の案内・セルフレスキュー・基山から天拝山縦走・水曜登山(吾妻岳・海岸歩き)県連主催冬山・深入山、恐羅漢山・中野さんのお宅の押し絵雛(写真)
--------	--

	2016年3月	2016年4月	時間	場所
定期総会		9日(土)	13:00~16:30	西諫早公民館
運営委員会	8日(火)	12日(火)	13:30~15:30	
全体集会	23日(水)	27日(水)	19:00~21:00	



☛のお雛様は中野さんのお母様のお誕生の時の押し絵雛です。3Pもです

基山から天拝山へ 九州自然歩道を歩きました。



☛ 基山の登山口。コンパスを合わせる。



☛ お滝。昔はみそぎの場所？



☛ 東北門あとで方角確認。



☛ ゆっくり組も必死で歩きます。



☛ 基山の頂上。あちこち眺める。



☛ 天智天皇欽迎の碑で集合写真撮影



☛ なかなか着かない天拝山。



☛ 最後の急な登り。あと少しで頂上



☛ やっと着いた天拝山。展望所



☛ 二日市温泉の発見者菅原虎磨

2016 /3 月の山行



部	山行部	ひまわり山行部	自然保護部	技術研修部
月/日(曜)	3/6(日)	3/25(金)	3月下旬ウィークデイ (桜の開花時期)	3/27(日)
山名(行事)	仰烏帽子	橘神社～とけん山	田布施川桜ウォーキング	羽金山
地 図	頭地	愛野・肥前小浜		雷山
集合場所	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	県営バスターミナル 島鉄バス 8:20 発	諫早駅裏 8:00 西諫早駅 8:10	諫早駅 7:20 西諫早 7:30
難 易 度	体力 1 技術 2	体力 1 技術 1	体力 1・技術 1	体力 1 技術 1
帰着時間	20:00	16:00	17:00	18:30
歩行時間	3.5h	3h	5h	4h
交通手段	マイクロバス	公共交通機関	マイカーor マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	?	あり	無し	古湯
参加費	5,000 円	交通費のみ	3000 円	3500 円
申込期限		3/22		3/20
集 約	高森	林孝子	山口	山下文代
備 考	山肌一面にある残雪を解かし顔をのぞかせる黄金の福寿草を見に行きます。	ひまわり山行部が毎年恒例にしているお花見山行です。	佐賀労山の方も一緒に桜満開の並木道を歩きます。開花時期と晴天に合わせて実施するのでどうぞ期待。	ショウジョウバカマの大群落を見ながら歩きます。福岡県の名曝、白糸の滝から登ります。頂上は西日本西部の電波塔がある所。整備された敷地内にも入れてもらえます。
感想文提出	3/16	4/5	4/5	4/7



2016 /4 月の山行



	自然保護部	ひまわり山行部	山行部	技術研修部
月/日(曜)	4/8(金)	4/15(金)	4/23(土)	4/29(金. 祝)・30(土)
山名(行事)	天山	浄土山	基山～九千部山	市房山・天包山
地 図	古湯・小城(佐賀)	古枝(佐賀)	不入道・中原(福岡・佐賀)	市房山(熊本・宮崎)
集 合 場 所	諫早駅裏 8:00 西諫早駅 8:10	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30	諫早駅裏 6:20 西諫早駅 6:30
難 易 度	体力 1 技術 1	体力 1 技術 1	体力 2 技術 1	体力 2 技術 2
帰 着 時 間	17:00	16:00	20:00	20:00
歩 行 時 間	3 h	3.0h	5h	29/1.5/30/5h
交 通 手 段	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	湯山温泉民宿
温 泉	あり	あり	あり	あり
参 加 費	2500 円	3000 円	4000 円	15,000 円
申 込 期 限	3/31	4/9	4/16	4/20
集 約	山口	林孝子	高森	山下文代
備 考	佐賀県小城市のシンボリックな山です。あめ山にも登ってみましょう。	十三佛・岩屋観音等極楽？浄土を巡ります。岩場の得意な人は絶景が見られるかも？	基山から九千部山まで九州自然歩道を歩きます。2/6の続きです。	アケボノツツジの咲くころをねらいました。温泉もいいですよ。
感想文提出	4/18	4/25	5/3	5/10

県連行事案内……………(参加申込 事務局 鎗水まで)

比叡山岩登り(アルパインクライミング)： 2016年4月2日～3日

技術研修部だより (参加の連絡・川原まで)

セルフレスキュー

2月27日(土) 9:30 西諫早駅

3月26日(土) 9:30

水曜登山：水曜日に多良岳を中心に山に登っています。西諫早駅8:00出発です。



2015年12月/2016年1月

2月6日（土）

基山（きざん）から天拝山 縦走（山行部）

（参加者）中須賀、高森、松岡、松田、山下(ち)、高田、鎗水、大久保、工藤、
中野、林(和)、福岡、林(孝)、田村、田中(静)、乾 (16名)

（行程）諫早駅裏 6:30～西諫早駅 6:40～金立 SA7:45/8:00～鳥栖 IC8:10～上原田公園
8:30/8:45－登山口 9:15－お滝の行場 9:25－東北門跡 9:45－丸尾礎石群 9:55－基山・草スキー場 10:10/10:55－山口 11:40（基山へ1.4km/自然歩道案内板）－天拝湖（昼食）
12:00/12:30－筑紫野市総合公園 12:40/12:50－林道終点 13:05－天拝山 13:40/13:50－天拝山歴史自然公園 14:20～二日市博多湯 14:35/15:15～筑紫野 IC～西諫早駅 17:00

（感想）ここ2回ほど続けて天候不順で山行行事が中止となっていたが今回は無事迎えることができた。4時に起床しネットで天気を確認すれば昨夜と変わらず崩れる気配もない。佐賀大和を過ぎる頃には朝日も差し、風もなく薄曇の様子にまずまずの山行日和であると安心する。JR原田駅近くの高速度路脇の上原田(かみはるだ)公園入口で下車し登山口へ向かう。いつも思うことであるが、初めて登る山は登山口までのアクセスが分からず大変で



ある。会の山行ではこの心配はない。事前調査の苦勞に感謝するばかりである。

公園入口から高速道路沿いを太宰府方面に100mほど進み左折してダート道に入る。暫く道なりに行くと畑の柵にかけてある見落としそうな小さな案内にしたがい左折する。これより先は道標もしっかりしてきて、数分で右斜めに階段状に分ける入る山道にあう。基山への登山口である。ここから登りとなり、右に沢を見て杉や檜の中を行くと

「お滝の行場」に着く。上を仰ぎ見る会員に何かと思えば、途中から大きくU字に曲がった杉の木に関心。ほかにも幹を裂かれた倒木も目立つ。すでに葉が枯れているものもあるので先月末の大雪の被害ばかりではないのだろう。

さらに杉や檜の林の中を標高をあげるにしたがい、七世紀後半に築かれた基肆城の東北門跡、丸尾礎石群を経て、樹林帯を抜けると北峰（北帝）と基山をつなぐ弓状の稜線に出る。北峰は三角点のある基山より若干高く木々に覆われ、一方基山は草の台地で広々とし

て展望が開けている。緩やかな傾斜を登り陽差し、雪舞う（塩粒のような雪ですが）、基山展望台に立つ。三角点は展望台から土塁を越えながら南に100mほどのところの高台にある。高台は城が中世城郭として再利用されたときの主郭と推定されている。高台から一段低いところの隅にひっそりと「いものがんぎ」なる石柱が立っている。これを見て小生腹も空いていたこともあり、すぐに食べ物の「いも」に何か関係あるのかなと想像してしまった。



後で調べたら「基山山頂（展望台から三角点）への途中にある凸凹の地形は「いものがんぎ」（イモの敵の意）と呼ばれています。これは人為的に作られたもので、敵が攻めにくいように古代ではなく中世（戦国時代）に作られたものと考えられます。」（基山町 hp から）と言うことでした。山頂のあの独特の地形を見れば、なるほど納得。

山頂からは雲かかる宝満山・三郡山や少し離れて九千部山、脊振山の眺望も得られたので、薄曇のなかこれだけ見れば良しとしよう。大休止を終え天智天皇欽仰ノ碑の前で集合写真を撮り、次の目的地天拝山へ。

初春の弱い日差しを受け草スキー場を横切り、杉や檜にかこまれた九州自然歩道を八反田橋・天拝山方面に下る。林道を2箇所ほど横断して、右手に竹林が見えると、民家が眼下に広がり基山からの登山道終点に近づく。イノシシよけ（？）の金網の柵を通り抜けると八反田橋に続く道路に出る。住所は筑紫野市大字山口である。そこには狭いながらも田んぼが開けていて里山の雰囲気があった。八反田の名はここからかなと想像する。樹林帯の山道を抜け明るい里山の道路に広がり談笑しながら八反田橋が架かる山口川に向かって下り、山口川を渡り天拝湖・天拝山に登り返すように歩みを進める。



天拝湖で正午を迎え、湖の土手の芝生で昼食をとりながら後続組を待つことにした。湖から当初昼食予定地の筑紫野市総合公園は10分足らずであった。山口からここまでのアスファルト道路は硬く、足と腰に負担がかかる。土の山道は歩きにくそうに見えても軟らかく足への負担は軽く疲れにくい。ここで後続組みと一緒に天拝山に向かう林道を西にすすむ。林道はすぐにダート道となり天拝山に至る稜線まで続く。

稜線にでて進路を北東にとる。竹林から常緑樹の樹林帯と変わる中を、10~20mほどのアップダウンを数度繰り返して、大きく木の階段を下り、少し上り返し右にすすむと、急登と巻き道の分岐に出る。ここは最後の試練とばかり急登をとり一気に天拝山頂上に飛び出す。

眼下には大宰府や筑紫野の市街が広がり、その先には砥石山、宝満山・三郡山、大根地山が並ぶ。



眼下には大宰府や筑紫野の市街が広がり、その先には砥石山、宝満山・三郡山、大根地山が並ぶ。

本日の山行もほぼ終わりである。稜線でのアップダウンの疲れも忘れ、足元に気をつけて皆さん一気に下る、速いこと。あとは二日市温泉につかり至福を味わうのみ。いやもうひとつ忘れてはならない疲労回復ジュースとエネルギー充填薬補給の楽しみ。基山・天拝山を振り返ると歴史と里山の散歩道でした。山中には多くの史跡、沢には豊富な水。閑散とした基山、近隣の人々のトレッキングコースとなっている天拝山。でも基山も花咲く春には賑わうでしょう。皆さんお疲れ様でした。今回の楽しい山行に感謝します。



この1週間、セルフレスキュー、水曜登山、帆場岳・四ツ峠、と久しぶりに体をよく動かしてきたので、今回の山行は体も軽く強張りもなかった。今後も水曜登山と行事へ参加で体調の維持に努めたいと思うがいつまで続くことやら。(乾 記・文中の写真も)

2月10日(水)

水曜登山(吾妻岳、千々石海岸)

(参加者) 川原、乾、田村、松田、林和、中野、坂口(一般) (7名)

(行程) 西諫早駅 8:15～田代原 9:20～吾妻岳 10:10～駐車場 11:10～昼食 11:30～
千々石海岸 12:30～帰路 1:30

〈感想〉西諫早駅8時集合。すでにK氏、I氏、S氏の3台の車は到着。今日は参加者が多いのではとちょっとうれしくなる。8時少し過ぎたころに配車を考え出発。I氏は午前中で帰るとのことで単独で車に乗り、他2台に分乗する。雲ひとつない快晴。とにかく水曜登山は8時に集合した人だけで出発なのでたいへん気楽である。吾妻岳には田代原から登るのでなんとなく百花亭の饅頭と途中の野菜が楽しみ。つつい主婦の日常が頭をよぎるが、残念ながら百花亭は工事中で休み、野菜は今日に限りなにもでていない。すっきりとあきらめ山登りに専念することに。車中はS氏の運転で女3人の高齢になってもおしゃべりはおとろえをみせない賑やかさにへきへきされながら田代原に9時すぎには到着。ていねいな準備体操をして登山開始。登り始めの足元はやわらかく、これなら今日は楽勝と考えていたがすぐに考えをかえさせられた。馬を額に掘り込まれた馬頭観音さまをお参りしたあたりからだんだん足元は瓦礫に変わり、急坂になる。以前登ったときも「きついなー」と思ったがやはりきつさに変わりはなかった。だんだんとおしゃべりが聞こえなくなり、もくもくと登る。400メートルの表示からさらに瓦礫と急坂はきびしくなる。いつも後半のあと300メートルの表示から山は厳しいのだと気をひきしめながら登るが800メートルの山なので悲鳴をあげる前に到着。快い疲れと汗、それに雲ひとつない青空の下、山に登ったものにしか味わえない感動(少しオーバーかな)。頂上から少し下って観音様へと行くが、その途中青空と少し霞みをおびた橘湾の光景はすばらしく、地元島原半島が誇らしく思えた。観音様もどなたがお世話されているのか立派な水槽があり、きれいな社に鎮座さ

れて、この吾妻岳を守られている。11時過ぎには駐車場まで下山しゆっくりと昼食をとる。

昼食後千々石海岸へ向かう。約3キロの砂浜を歩くことに。最初は砂がわりと引き締まっていたのでこれなら大丈夫かと侮っていたが、だんだんやわらかくなり靴がめりこんでいくと足をかやすのが大変である。とにかくゆっくり歩いていたのではめりこんでしまいそうになるのでなるべく早く足を交わすが、砂浜は少し斜めになっているので右腰がつかれる。目標地点が遠く、遠く感じられた。山に登ると変わらぬくらい汗が出た。今日は快晴のなか山と海を歩くことができた。それもウィークデイの水曜日に。歳をとったからこそその楽しみにちがいない。

とにかく水曜登山は申込みなしで大変気楽です。内容は経ヶ岳や、多良岳と厳しいときもありますが川原キャプテンがしっかりフォローされますのでとても安心です。しかも地元ですから遅く出発して早く帰られます。一度参加すると病みつきになりますよ。皆さん参加されませんか。(中野 記)



吾妻岳から橘湾を望む

2月13日～14日

深入山・恐羅漢山(県連主催冬山訓練)

(13日・曇り雨パラパラ/14日・一時霧雨、両日山頂気温5度程)

(参加者)7人：川原・鎗水・大久保・松岡・中須賀・山下ち・国分(他に県連各会19・個人1)の合計27人。

<行程>

13日：7:50JR西諫早駅発—大村IC—金立SA—筑紫野IC—11:30鹿野SA—戸河内IC—14:10広島県いこいの村・深入山登山口到着 14:30 登山開始—16:00△深入山頂上—17:30下山完了—18:10 恐羅漢山スノーパーク、民宿に泊。

14日：8:12 民宿発—8:20 スノーパーク・恐羅漢山登山口着。8:30 登山開始—11:00△恐羅漢山頂上—11:10 下山開始—12:15 下山完了。

13:00 スノーパーク発—14:00 戸河内道の駅—16:45 関門橋—17:55 筑紫野—18:22 金立—19:05 大村IC—19:40JR西諫早駅前着

<深入山登山感想>

広島県戸河内で行われた労山県連雪山登山に昨年に続いて参加した。大型バスに27人でゆっくりとした乗り心地よい旅程、2月13日は曇天、気温は高く15度、雨もぽつぽつの天候。参加者には今年も佐賀県連の4人も同行だった。

9:30 筑紫野ICでオレンジのK女史乗車で参加者勢ぞろいとなり顔合わせの自己紹介が始まった。それぞれの語り口で一回りし、ついで雪山



経験長いオレンジ川原氏の雪崩の話、県連理事長稲田氏による大山・雪山の動物の話、坂口氏の音楽の話などあり。佐賀労山での雪山登山雪崩の机上講習や九重山系縦走計画概要の話があった。小生は昨年比婆山雪山登山での一人下山の羽目となった不安下山の経験を披瀝した（登山開始時のコンパス・地図合せの指示なし、多人数登山での組編成なし・下山時も同様のバラバラ下山での体力差による列の離れあり：オレンジニュース2015、4月号）、次いで西日本地区雪崩講習会参加の国分氏の積雪形状と雪崩危険度判定法、遭遇時の対応法、心臓マッサージ法などの話があった。いずれも本日午後山行の参考となった、OR??

福岡県鞍手付近で空はやや晴れてきて雪は融けるが喜ぶべきか否か??。11:00 鹿野SAまでの中国道沿線では山の降雪はほとんど見られず、ここで昼食、1月オレンジ山行の羅漢山登山に下りた吉和IC付近から降雪深くなり、13:30 戸河内IC、14:10 登山口の広島いこいの村に到着。きれいな大型の白っぽい建物。駐車場の雪は消えて（除雪?）いるが、眼前の登山口から上はかなりの降雪だがアイゼン装着まではなさそう。ウォーミングアップ後出発、すぐかなりの傾斜の雪道を登る、先頭を交互に変わり登る。15:13「大岩」、誰か先頭をとるので手上げるも認められず、佐賀組が先頭に代わり登る。15:31「小岩」、ここから雪は消えて笹原となりところどころ融けかかった雪がありすべって登りづらい。

15:50 南登山口の標識、ここから雪は再びあらわれ登りづらくなる。時間も予定を過ぎ気味で残念だがそろそろ下山しようかと川原学校長の声もするが、リーダーは登ろうとのこと、ザックはデポしてもよいとのことで標識の下に置いて登り

ここから10分16:00 深入山頂上に達した。記念撮影してもらってすぐ下山。

<下山失敗＝道迷いと、その弁明>

16:10 南登山口の標識の方向に下り16:15「百畳岩」、その下方の「小岩」、16:20「大岩」を左側を通りすぎる。16:25 頃「小岩」を過ぎて右に下る、この頃から先方に行く隊も遠くになり5分もしないうちに見失う。この地点は雪もなく・笹原の連続で踏み跡も見えずそのまま下る、5分ほど下ると降雪地帯となる。ここでコース誤認に気付く、下降続け一時的に下前方に「いこいの村の建物」が見える。ここで登山開始時に地図あわせをしたコンパスを逆にして（下るときには地図あわせ失念）、下る方向を判断し饅頭型のピークと小沢を越えガスも出てきたので、見晴らし良い方向に登っていると携帯電話の呼び音。16:42 着信：下山中不明者あり探しているとの電話。小生は道迷いはしたが昨年の例もあり、探されているとの気はなかった。降りきれぬ不安はまったくなかったわけではないが下山可能と判断していた。だが皆に迷惑がかかっていることには気付かなかった：隊に連絡しなかったことは悔やまれた。

16:55 別組みと合流。合流した組（パーティ）も数人づれでの道迷いで?、登路とは別のコースを下りているとのことらしく、「劇団一人」的道迷いの小生と似たようなものでは??、以後は数人づれで17:30 登山口到着した。

この一件については帰路のバスでの感想戦で話題となったがそうひどい非難は受けな



かったように感じた。小生の失敗下山（第一原因は本人にあることはもちろんだが）について種々フォローを頂いたオレンジの諸氏に感謝したいところではあります、がこの失敗の本質？全体についての検討も必要デハ。

帰宅した翌日の小生の下山路の記憶と事前偵察隊の直登図からの検証では、直登路と南登山路の中央部の尾根・谷部を下り、合流地点は上方から見て南登山路に近い尾根を右に降りた点、グラウンドやや上方の部分と推測された。

今回の雪山登山では雪山といっても深い雪の連続や今回のように雪と笹原の混交状態、雪は深いが登路は判然としている等いろいろでありこれに対応するには種々の条件下での種々の経験が大切ではと感じた次第です。

<恐羅漢山登山>

2月14日午前4時ころ目覚めトイレに出るとゴウゴウと音がしている。窓を開けると民宿近くの水路の雪解けの水の流れる音であり、昨日の夕食時過ぎに響いていた強い雨音の結果で今日の天候が危ぶまれるほどだった。

8時過ぎにバスに乗り10分ほどですぐ上の登山口駐車場・登山口に着いた。多数の大型、普通車のオンパレードだった。さすがスノーパークだ、スノーボードを持った中年・若者が多数うろちょろしている。このスポーツの危険性からかさすが老年は少ないようだった。

スキー・スノーボードは寒冷地帯地方では冬場の娯楽・文化となっていることを強く感じた。また体力使う山登りは冬場はやはり体力的に楽なスキー・ボードには勝てないのだろう。夏場はまた近年は山以外の楽しい娯楽の場があるのだろう。



今日の天候状況・昨日の深入山登山の状況からか、予定の登山コースを変更して、スキー・スノー

ボード場の西側の植林地帯の横の安全な坂を登ることになった。個人的好みと体力などによって希望の3パートに分かれての登山、小生は訓練なし単純登頂コースにオレンジからは1人、あゆみ4、個人1の計6人で登る組になった。

8:30分リフト左の管理棟横から、ロープ訓練登頂組、単純登頂組、ゆっくり登頂組の順に出発した。天候は曇天、一時霧雨・曇混じり・ガス混じりの低温状態。登路の右側の広い地帯にはスノーボーダー、時にスキーヤーが続々とかなりのスピードで滑ってくる。最近の情報ではスノーボーダーと衝突した小学生が死亡したとの情報も見たし気を付けながらの登山だった。

10:10分頃第2リフトとの中継地付近から急坂となりここで休息中の訓練組に追いついた。ここから左の植林帯の中の緩い登路(このコースもスノーボーダーも通る)を進むが坂もひどくなり、風も強くなり、アイゼン装着となった。練習はやってきたが久しぶりのことアイゼンの前後を逆につけるへまもやり皆を待たせて申し訳ない事態となった。ここで気が付いたのは前後を逆に着けると、左右も逆になるのだとわかった・ちと考えるとわかることだが。

このコースは幅は狭くボーダーもどちらかといえば経験浅い若者が多いような風貌に見え一層気を付けて登る。10:30過ぎに急坂となり10:50過ぎに小屋横で休息、休

んでいる若いスノーボーダーに1日何回滑るかと聞くと10回ぐらい、下まで何分かかかるかと聞くと転倒しなければ5-10分との答えだった。

作業中の人に聞くとあと15分もあれば頂上という答えに元気をもらい最後の坂を登るとやや平坦な地帯に出た、ここからは吹雪気味、雪も深く足場を選びながら進むと前方から下山中の訓練組と、ゆっくり組に出会う。

小生らの訓練なし登頂組の第2パーティが最後、所要時間2時間30分の11:00の登頂となってしまった。記念撮影しあい、11:10分早々に下山にかかった。途中糞混じりの中で行動食をほうばりながら横をザー、スウと音をたてながら通過するボーダー達を見ながらゆっくり下山した。さすがスノーパークのスキー・スノーボード場、雪は深いが良く整備された急坂の登路ではあり、昨日の深入山とは異なり山道としては安心の登山で、下山所要時間1時間の12:15分に無事下山完了となった。

本日は深い雪の中のきつくて楽しい登山で昨日のもやもやが吹き飛んだ感じだった。

天候・雪状態ならびに参加者の体力などに応じた登山コースへの変更などによる安全登山であったと登山学校関係者の配慮にお礼申し上げたい。(須賀山人 記)。

(冬山訓練登山に参加して)

我々、オレンジハイキングクラブは6名、西諫早駅に集合して長崎のメンバーと交流しました。なお筑紫野インターで国分さんが乗車して計7名の参加となりました。気温も高く細かい雨も降り出して広島の方はどうだろうかと不安を抱いての出発となりました。



鹿野サービスエリアで昼食をとり、吉和の手前のトンネルを抜けた途端どこかの小説家の、例のあまりにも有名な台詞のシーンが目飛び込んで来ました。戸河内インターを1時30分に下りて、一路、深入山を目指しました。途中の川面は、雪解け水で激しく流れていました。茶色く、うねりながら春に向かって全力投球という感じですね。2時10分「いこいの村広島」横を通過して東登山口からダブルストックで登り始める。なだらかな山なのに、雪があると、かなり、きつい。展望岩も含めて3ヶ所、岩場を抜けて4時ジャスト予定通り深入山山頂に到着、後は簡単に下山と思っていたら、油断して、ちょっとバラけて自分たち6名、ガスってるせいもあって南口に大きく迂回してしまって予定時間を大幅にオーバーしてしまいました。詳細は鎗水さんがオレンジHPにのせています。長崎班は恐羅漢山荘、諫早と佐賀が吉田荘とわかれて民宿に入りました。自分達の民宿の、おかみさんは、薬味も醤油もかかってない冷奴みたいに不愛想で食事中ずっと、座敷童子みたいに、座って我々を監視していました。多分「持ち込みは絶対見逃さんぞ。遅く来たんだから、早く食べて寝てくれ。」なんて思っていたのでは。考えたら、この前の三倉山の時の民宿も、けったいな所で、スナックと焼き肉店とカラオケボックスが合体して、飲んで食べて歌って騒いであとは代行なんて頼まないで泊まって行ってねというユニークなところではありました。次の市房山は、大丈夫かな。夜中、相当、降った雨は、朝には、うまい具合ピタッと止んでくれていて8時、恐羅漢山を目指してハイキング組と訓練登山組にわかれて出発

しました。自分は訓練の方にまわりました。ガスっていたのと時間的なこともあってゲレンデの横を、スノーボーダーに注意しながらアイゼン着用で山頂まで登り下りは、へバルナの稲田さんの指導のもと、アンザイレンやワカンの装着訓練など、こなしで1時丁度下山。一路諫早へ。
(松岡 記)



2月17日水曜登山・経ヶ岳にて



おれんじニュース 312	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡 正 廣
編集責任者 及び 編集委員	山下ちず子 兵庫芳隆、中野美津子、林和子 山下文代、鎗水律夫
発行年月日	2016.2.24
財政担当	
郵便振替口座	
ホームページ	http://orangehikingclub.com

暖冬といわれた今年ですがここにきて急に雪景色のニュースが出てきました。広島は前日からの雨でザラメのような湿り気を帯びた雪でした。霧氷の写真は地元、経ヶ岳で撮影されたものです。そろそろ黒木ではセリバオウレンの開花のニュースも聞いています。ニュースに掲載されるのも近い様です。
(山下ちず子)